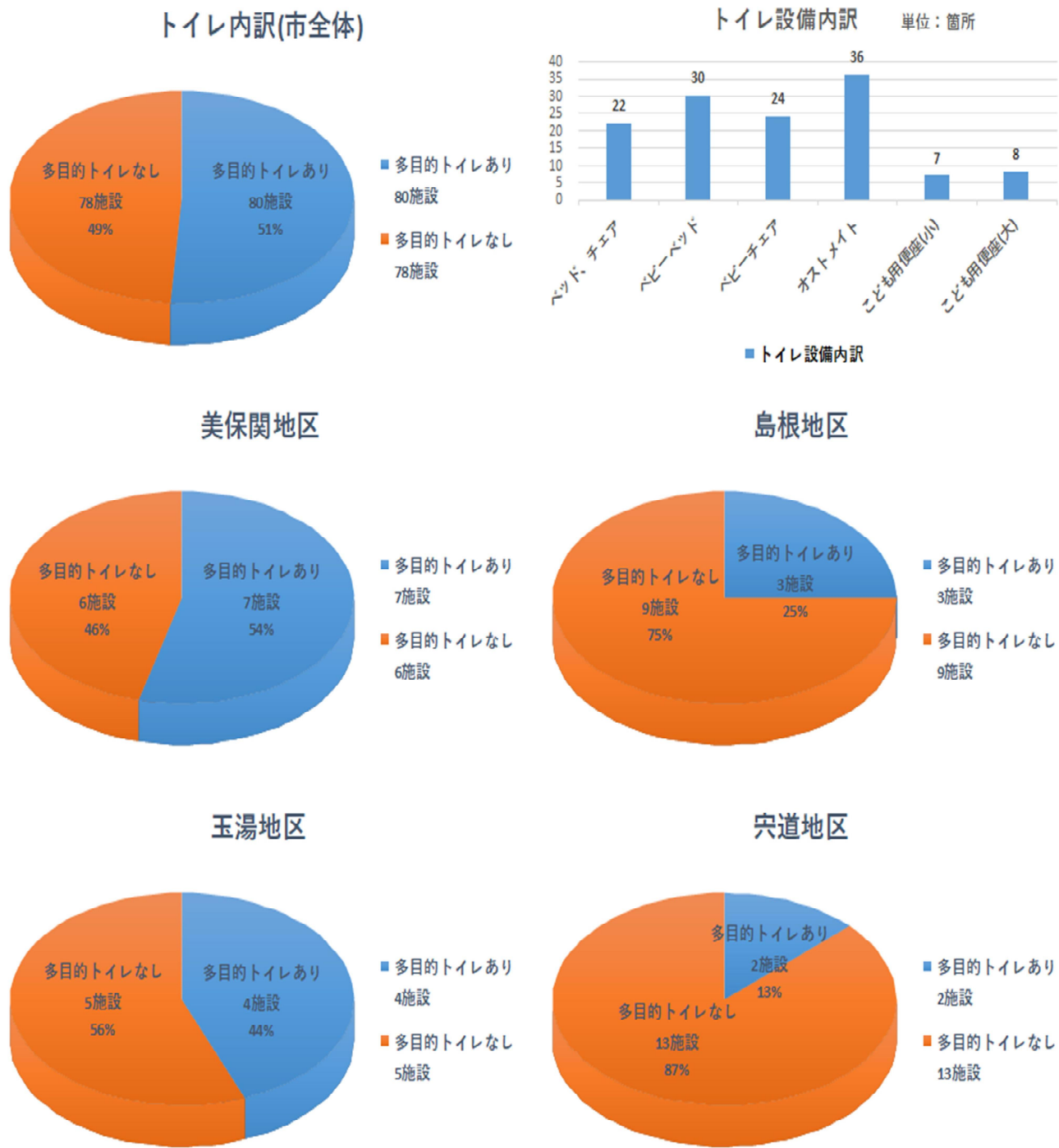


第1章 公衆トイレの現状と課題

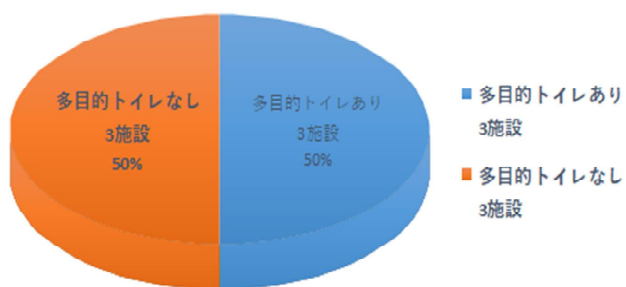
1 現況調査、考察

松江市が所管するトイレの現状を調査した結果、各トイレの内訳（一般 or 多目的トイレ）及び地区別の多目的トイレの整備率は次のとおりとなりました。※令和7年2月時点

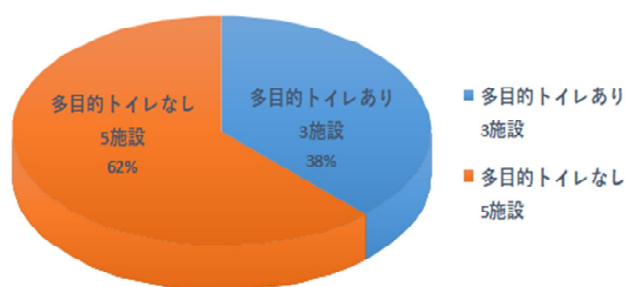
表2 各地区のトイレ内訳表



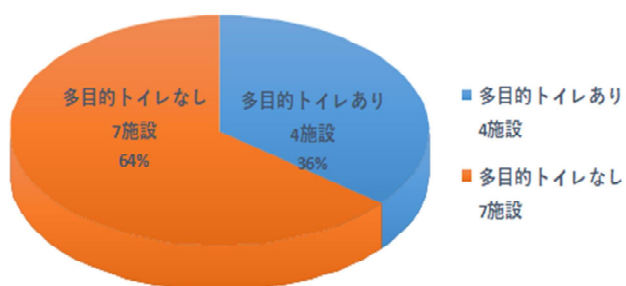
八束地区



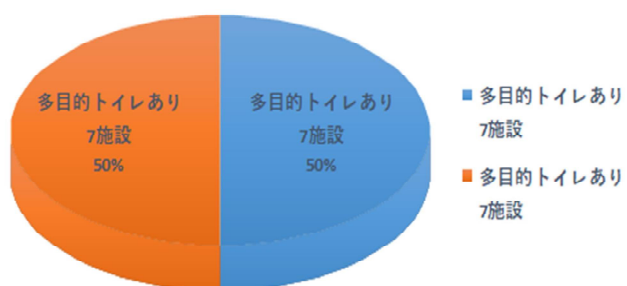
東出雲地区



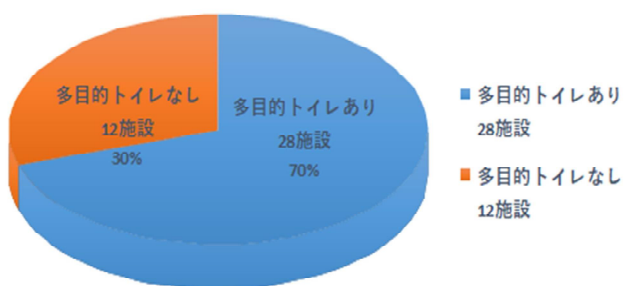
鹿島地区



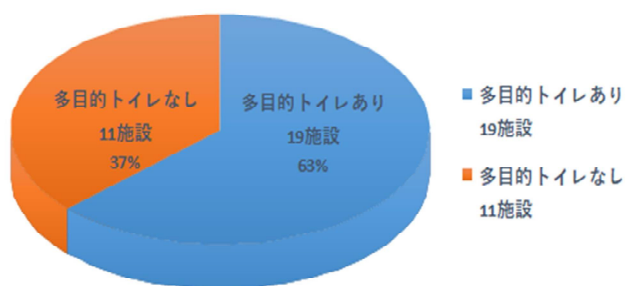
八雲地区



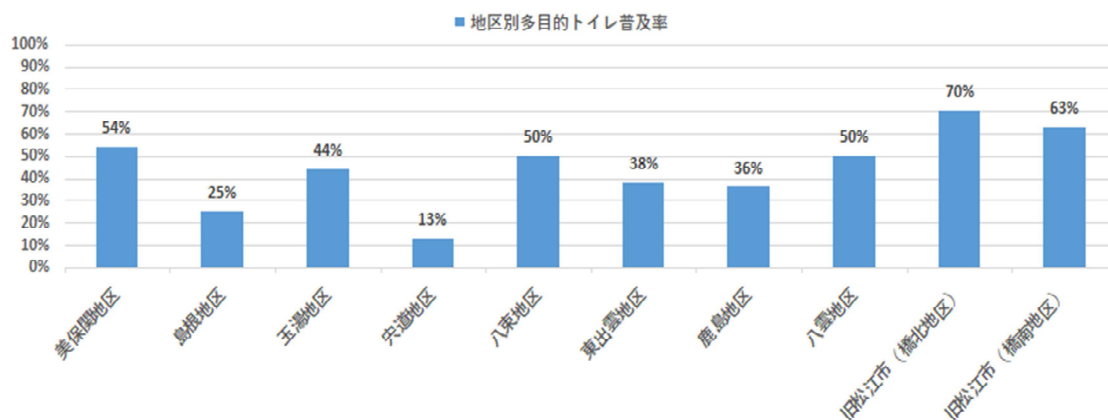
旧松江市（橋北地区）



旧松江市（橋南地区）



地区別多目的トイレ普及率



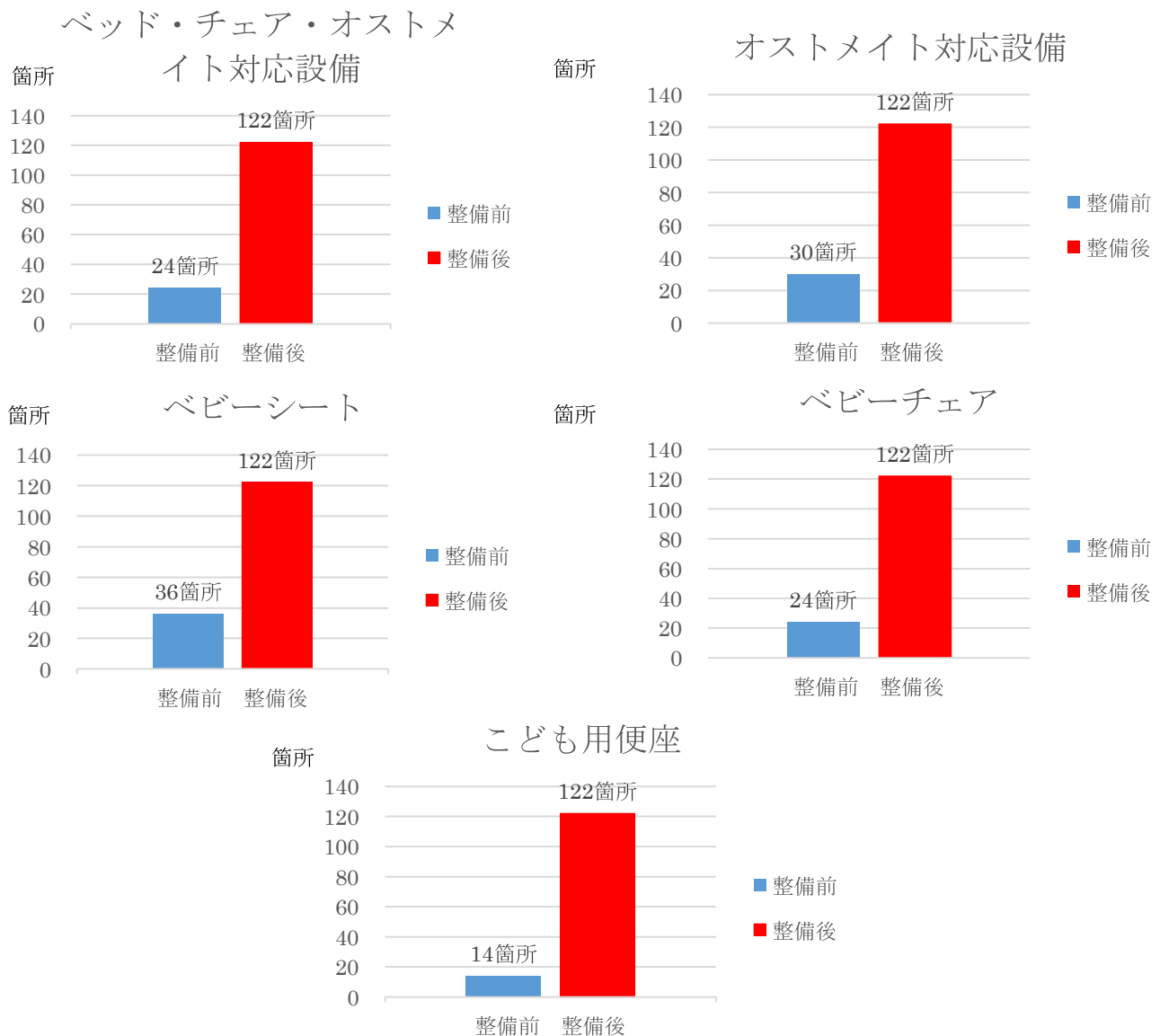
調査の結果、旧松江市と旧町村の区域では、多目的トイレの普及率に差があることが分かりました。

また、トイレの「整備内訳比較表」(表3)を見ると、ベビーシート(ベビーベッドも含む)、ベビーチェア、オストメイト*対応設備がすべて設置されているトイレは24箇所のみで、こども連れの方にとって必要なベビーシートは36箇所、ベビーチェアは24箇所と低い設置数となっていました。また、こども用便器の不足も深刻で、現在こども用便器14箇所(こども用小トイレは7穴・こども用大便座があるトイレは9穴)であり、わずかであることが分かりました。

このことから本計画において、旧松江市、旧町村の区域とそれぞれ多目的トイレの整備を進めるとともに、各設備(ベビーシート、ベビーチェア、オストメイト対応設備、こども用便座等)の充実を図ることで、利用する皆さんにとって快適なトイレを目指すこととしています。

なお、本計画の対象としているトイレは158箇所ですが、廃止を検討するトイレ36箇所も含むため、整備対象のトイレは122箇所としています。

表3 設備内訳比較表



*オストメイトとは、人工肛門や人工膀胱を持つ人のことを指します。